月桃通信 No10　2019年1月28日

石原つや子

「県民投票の成功を祈って」

◎すべての命はひとつの大きな命の中にある、すべての命がこうしてつながっているとしたら、ひとつの命への暴力はすべての命とつながる。こうしてわたしたちはこの世界の暴力からひとり無縁であることはできない。（ガンジー魂の言葉から）

◎辺野古新基地反対、人殺しのためのすべての軍事基地に反対、全基地撤去。私たちは勝つまで諦めない。（座り込み市民の言葉）

26日（土）県民投票キックオフ集会に、3000人もの県民が結集して辺野古新基地を絶対に造らせないとの沖縄県民の心がひとつになって叫びを上げました。キャンプシュワブ米軍基地が揺り動いているように私は体中で感じました。そして、沖縄はスゴイ!!生きている!!と心の内で叫びました。胸が張り裂けそうになりました。韓国の民と響き合う同質のエネルギーが沖縄の民の血の中をかけめぐっているように実感しました。こんなに小さく貧しい民を、何故安倍政権はいじめるのでしょうか、何故、県民投票という必死のこの私達の行動を踏み潰そうと妨害するのでしょうか。どんなに民意を示しても知事が撤回をしても一顧だにされず見捨てられているから力をふりしぼって県民投票をしようと若者達が立ち上ってくれたのに、それをも潰そうとするのですか、私たちは虫けらではありません。魂を持った沖縄の民ですよ、と叫びたいのです。安倍政権は今回もまた、沖縄を二分、分断して県民投票を無効化しようと、圧力を加えました。日本会議を始とする自民党保守の首長の五市（石垣市、宮古島市、宜野湾市、沖縄市、うるま市）に対して、自民党国会議員を利用して、市議会議員達に県民投票を拒否するよう学習会を開き資料を渡していたのです。予算を否決しても法的問題はないというお墨つきまで示して、反対する議員の後ろ盾となっていた事実が明らかにされました。市議会を傍聴した時、反対する自民党議員は反対の論拠も全く示さず、あまりの無能さに唖然としたのもそのはず、彼等議員達はただ上の指示通りに動いていたにすぎなかった実態が見てとれました。いよいよ五市（有権者の30%）が県民投票を実施しないという事態となり、私達うるまの仲間達は他の四市もそれぞれに全身全霊でこの事態を受け止め、出来ることはすべてやって市長が実施を決定してくれる迄、訴訟と裁判をも視野に入れて戦うことにしました。街頭に立って朝立ち、夕立ち（１時間半）のぼり旗を揚げて県民投票に行きましょうと訴えました。市役所前に結集しての抗議行動、市長との面談要請行動、署名活動、うるま市全域への看板設置、街宣車での訴え。そして急きょ県民投票総決起大会を開催、300人余が結集して、私たちの投票する権利を奪ってはいけないことを訴えました。こうした五市の市民の抗議行動は増々激しくなり市長達を追いつめていきました。それにもかかわらず五市の市長は頑なに態度を変えず、いよいよ五市を除いての県民投票を行うしかないと腹をくくる中、県民投票を立ち上げた会の若きリーダー元山仁士郎さんが命をかけて宜野湾市役所前にてハンストに入りました。彼のこの行動に対して、多くの若者達が心動かされ支援にかけつけることで、県民投票全県実施への機運は一気に高まり県議会を動かし、再度与野党の討議ということになり、厳しい状況の中、二択（賛成、反対）を三択（賛成、反対、どちらでもない）にすることによって、最終的に自民党もこの案を受け入れて全県実施が決まったのです。目まぐるしい変化に対応して戦ってきた私達は今、辺野古新基地反対に〇をという看板、のぼり

旗にとり変えていよいよ2月24日全県で投票の日まで全力を尽して県民投票成功のために頑張っています。本当の戦いはこれからです。
この間にも海には土砂が投入され続けています。そして3月25日に新工区に土砂投入を始めると防衛省は通告しています。軟弱地盤による困難、不可能とも言われている場所は後回しにして、簡単な浅瀬から埋め立てていくという全く先の見えない計画を何故、政府は行うのでしょうか。
本当のことは国民に隠されたまま、何兆円とも言う莫大な税金がつぎ込まれています。これがどうして日本人一人一人の問題にならないのか不思議としか言いようがありません。
〝あなたの税金は、貧国の子供達の支援に使って下さい〟と私は訴えたいと思います。
辺野古新基地建設の強行に反対する憲法研究者声明が発表されました。その中の一部分をお伝えします。

「辺野古新基地建設問題は憲法9条や日本の安全保障の問題であると同時に沖縄の人々の人権問題である。民主主義や地方自治のあり方が問われているという点において日本国民全体の問題である。政府が新基地建設をこのまま強行し続ければ、日本の立憲民主主義に大きな傷を残すことになる。安倍政権は2018年12月14日に辺野古湾岸部で土砂投入を強行した。辺野古・大浦湾周辺の美しい海、絶滅危惧種262種類を含む5800種の生物だけではない、【基本的人権】【民主主義】【平和主義】【地方自治】といった、日本国憲法の重要な基本原理も埋め立てられている。辺野古新基地建設は、平和的な外交努力による平和構築を目指す日本国憲法の精神にも逆行し、むしろ軍事攻撃を呼び込む危険な政治的対応である。平和で安全な日本、自然豊かな日本を子や孫などの将来の世代に残すためにも、辺野古新基地建設に強く反対する。」

今や辺野古は、日本の多くの人々と国際社会に知られる様になり支援の輪が広がっています。県民投票で民意が再び示されたら、それを無視する安倍政権はもはや存続の危機を迎えることになるでしょう。
イデオロギーよりアイデンティティーと保革を乗り越えて沖縄がひとつになること。決して日本政府によって分断されてはならない。このことは沖縄に生きる私達に突きつけられた最大の課題であることを県民投票全県実施への戦いは教えています。二択が三択になったことの問いをかみしめながら沖縄の将来を、そして今回命をかけて立ち上がってくれた若者達にエールを送りつつ沖縄を担う若きリーダー達に希望を見出しています。希望は一人の命がけの生き方の中から確かに生まれてくるのです。

◎わたしの人生が、わたしのメッセージ、そうでなければ目的を遂げることなどできないだろう

（ガンジー）

◎一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ。

（新約聖書ヨハネ伝）

※月桃通信No9の補足
〇2枚目、ダブリンで開かれた国際会議とは「米国が国外に置く全米軍基地とNATO基地の撤退を求める国際会議」のことです。
〇天皇メッセージとは極東軍事裁判で天皇戦犯処刑の動きを回避し、天皇の地位の安泰を図るために天皇と側近グループが取引条件として「沖縄の軍事占領は主権は日本に残存させた形で長期の―25年から50年ないしそれ以上貸与をする―と沖縄占領基地化を申し出たということを言います。「友愛ブックレット東アジア共同体と沖縄の未来」「あけぼの出版　沖縄と天皇」参照。